第1回山田町総合計画審議会_議事録

開催日時：令和7年3月14日（金）午前10時00分から午前11時30分
開催場所：山田町役場5階　委員会室
出 席 者：長﨑千秋委員、佐々木剛弥委員、山﨑淳一委員、倉原宗孝委員、沼崎真也委員、
昆尚人委員、高橋富士雄委員、船戸義和委員、千葉紀眞子委員
欠 席 者：佐藤清悦委員、菊地敏克委員、千葉紀明委員、阿部誠二委員、佐々木純子委員、
阿部美恵子委員
事 務 局：佐藤町長、田畑政策企画課長、佐藤課長補佐、鈴木係長

１　開会
２　委嘱状の交付
３　町長あいさつ
〇佐藤町長
本日は、お忙しい中、第 1 回山田町総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。本審議会は、今後の本町のまちづくりの方向性を示す第10次山田町総合計画を策定するにあたり、幅広い視点からご意見をいただく重要な場でございます。委員の皆様には、それぞれの立場や経験を生かし、率直なご意見をお寄せいただければと存じます。本町の未来を見据え、誰もが安心して暮らせる町を作るためには、人口減少や地域経済の変化など様々な課題に対応していくことが求められます。その指針となるものが、今後10年間のまちづくりの方向性を示す総合計画でございます。この計画を実効性のあるものとするためには、住民の皆様の思いや知恵をしっかりと反映させることが不可欠でございます。ぜひ、委員の皆様のお力をお借りしながら、実りある議論を進めてまいりたいと考えております。結びに、本審議会が本町の将来を考える貴重な場となることを期待するとともに、委員の皆様のご協力に改めて感謝を申し上げる次第でございます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
（町長は別公務のため、退席）
４　審議会委員及び事務局の紹介
事務局より、審議会委員及び事務局の紹介を行った。
〇事務局・佐藤課長補佐
議題に入る前に、委員の皆様にお知らせをします。本審議会の会議録につきましては、発言者、発言内容も含めて公表する予定となってございます。会議録の公表にあたりましては、出席された委員全員に内容を確認いただいた上で、ホームページ等で公開したいと考えておりますので、ご了承くださるようお願いいたします。また、録音の関係上、発言いただく際はマイクをご使用くださるようにお願いをいたします。
５　議　題
（1）会長の互選について
〇事務局・佐藤課長補佐
資料1をご覧ください。会長については、山田町総合計画策定条例第11条第2項の規定により、互選によって定めることとしております。

つきましては、会長を互選したいと思いますが、どのようにいたしますでしょうか。
○委員のどなたか
事務局案。
○事務局・佐藤課長補佐
事務局案のお声がございました。それでは、事務局案としまして、倉原委員に会長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
○委員一同
異議なし。
○事務局・佐藤課長補佐
ありがとうございます。それでは、倉原委員を会長に決定いたします。ここからの進行は、条例第12条第2項の規定により、会長が議長を務めることとなります。

（2）山田町総合計画と山田町の現状について

山田町総合計画と山田町の現状について事務局より、資料２に基づき説明を行ったところ、以下のような質疑があった。

○倉原会長
最後の 26 ページからですけども、空き家数の増減率 59.36％というのは、29 年度を分母ということでよろしいですよね。要は、59.36％と大きいなと思ったんですけれども。
○事務局・鈴木
お見込みのとおり、29 年度を分母とした数字になります。

（3）第 10 次山田町総合計画策定方針（案）について

第 10 次山田町総合計画策定方針（案）について事務局より、資料３に基づき説明を行った。

（4）第 10 次山田町総合計画策定に係る町民意見について

第 10 次山田町総合計画策定に係る町民意見について事務局より、資料４及び参考資料１に基づき説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

○倉原会長
児童生徒サミットはどのような雰囲気だったのでしょうか。
○事務局・鈴木
町内の小学校、中学校、高校の児童会、生徒会の子どもたちが集まって話し合う機会ということで開かれたものになります。その際に出た意見なんですが、お祭り関係の意見がちょっと多かったかなという印象はあります。また、高校生が議論をリードしてくれたおかげで、小学生も中学生も自分の意見を出せているような雰囲気でした。
○山﨑委員
資料 2 の 21 ページの公共施設の状況というところがあるんですけども、グラフで示しているのは面積ということでしょうか。
○事務局・鈴木
お見込みのとおり、延べ床面積になります。
○山﨑委員
非常に分かりにくいなというのが第一印象で、もう少し金額的な部分も入れたらどうかなと思います。公共施設とか町役場の委員を今やらせていただいてるんですけども、もっと数字を遠慮なしに入

れた方が町民の方々にも分かりやすいのかなと、そう思いました。
○沼崎委員
資料４の５ページのところで、山田町は水産業が基幹産業だと思っているんですけど、水産業の振興のところが中庸な評価というか、もう少し実際は深刻なんじゃないかなとか思ってまして。参考資料の方の水産分野のところにも記載があるとおり、定置の量が変化とか、養殖の方でホタテが厳しい等々一次産業全般に色々厳しいということは考えられるんですけど、ただ、さらに直近の話で言うと、貝毒が年々出る期間が長くなっています。先週からもう出荷規制がかかって、去年に至っては、12 月までホタテは出荷できなかったと。プラスアルファで、磯焼けによるウニの実入り問題っていうところで、水産業が悪いと町の税収となるふるさと納税に影響が出るっていうのを考えると、水産業の問題意識をいろんな部分でもっと周知した方がいいのかなと思います。プラスアルファで何かしらの具体策ですね。4 月から水産課ができて何か変わるのかもしれませんが、早急に危機的状況を回避していけたらと考えています。海の問題は観光にも直結してきますので。
○倉原会長
どうでしょう、今のご意見ですけど、事務局として。
○事務局・田畑課長
4 月から水産課が新しくできるということで、町長も、水産業に力を入れていかなければならないという風なことは常々申し上げております。今、沼崎委員がおっしゃった通りですね。貝毒の問題とか、それから気候変動、温暖化の問題等々、課長会議の中でも話は出ておりますけども、やはりこれについては、正直どのように対策をというか、政策を進めていったらいいかというのは非常に難しいところでございます。今後、水産庁の方から、職員が来る予定にはなっておりますので、その方のご意見も聞きながら、良い政策ができればなという風には思っております。いずれ、水産課と協議を重ねていって、水産の町にふさわしい施策ができればなという風に思っております。
○倉原会長
なかなかその技術的にも難しいところがあるのかと思います。今のご意見というのは、そうした課題があると同時に、結構大変なんだよっていうのをみんなで共有した方がいいんじゃないかっていうお話ですよね。
○沼崎委員
昔は必ず親戚、近所に 1 人は漁師がいたので、他人事ではなくて自分事として捉えてたと思うんですけど、だんだん漁師が減ってくると、なんかどっかでそういう話があるみたいだねっていう感じの受け止められ方になってるんじゃないかなと思ったりしてまして。ただ、実際問題は、少なからず観光においても、この自由意見の中にも、昔はあさり祭りがありましたとか、かき祭りがありましたとかっていうのもありましたが、今シーズンはあさりの貝毒の方が出ちゃってるので、一般解放は禁止になってますし、かき祭りも本来であれば 4 月の最終週の方が身入りが良かったのでやってたのが、貝毒が出る懸念が出てきたので、12 月に日程を変更して、本来 12 月はサケ祭りをやってたのが、サケ祭りが消滅しているというような状況なので、町内でのイベント自体も少なくなっているという部分も考えると、やはりそういう部分でも深刻なんですよっていうのを伝えることができたらいいなっていうところです。
○倉原会長
ご意見は、重要度、満足度とかでうまく整理されてるなと思いつつ、一方、ここに隠れてしまうよ

うな部分もあるんじゃないかなと思います。実感として委員の皆さんのご意見を一言ずつ伺いたいです。長﨑委員からお願いします。

〇長﨑委員

今回このお話があった時に、自分の仕事というか自分の周りのことしか全然分からなかったことが、自由アンケートとかでこういう風になってるんだなっていうことをたくさん知ることがありまして、じゃあどこから手をつけていいのかっていうのはちょっと分からない状態で今日うかがったんですけども。水産の方は耳にすることもあるんですけど、農業とか、商工とか全然分からない状態なので、今日はそういうお話も聞きながら考えていけたらなと思います。

〇山﨑委員

自分の分野の話をしますと、やはりこの人口減とかいろんな話が、2050 年には 6000 人とかっていうのが出てきていますので、商工会的なお話になると思うんですが、商工会を脱退される方も増えてきております。非常に最近厳しいかなと。しかしながら、新規で事業を立ち上げている方々もいます。資料にマイナスな部分がちょっとイメージ的に多いもんですから、プラス的な部分もちょっと取り入れたりしたほうがいいのかなと。具体的に言いますと、山田の祭りに山田中学校の全校生徒が参加して非常に盛り上がったりもしてますので、そういう部分も少しは入れてほしいかなと、そういう風に思ってます。

〇倉原会長

大変な部分の共有に加えて、いいところも共有したほうが良いというご意見ですね。

〇昆委員

参考資料の自由意見のところですけど、皆さん、それぞれ思いがあって、意見を出してるのかなと思うんですけど、191 番の「将来山田に住む子供たちのことも考えてほしい、若い人の声を聞いてほしい」っていうところに、これからの山田の未来を感じる部分があるのかなと思います。そして、児童生徒サミットのところと、中学生、高校生のところも見ましたけども、子供たちなりにこの山田のことを一生懸命考えて発言できる機会をもっと作ってもらってですね、10 年後、20 年後、大人になって山田で生活するのに何が必要なのかっていうところを反映できればいいかなと思っております。そのためにも、子供たちの意見をどう引き上げて実行するかっていうのは私たち大人の役割なのかなと思いました。

〇倉原会長

人口減少のことは全国的に言われていて厳しいんですけども、むしろ数としての問題もありますけども、そういう未来を担う子供たちの声がどう生かされてるかって、その辺が逆に人口減少への対応の１つじゃないかなと思うところです。

〇佐々木委員

資料２の 22 ページを見ると、山田町の人口の推計が右肩下がり、2050 年には 6703 人となってます。23 ページの人口構造のグラフもとても将来不安なものとなっています。人口が減れば、町の活性化にとってはマイナス要因だと思いますので、次世代を担う若者たちが定住したい、それから、学校終わって都会に行く、盛岡に行くとかっていう人も今いると思うんですけれども、山田町で仕事ができるような政策というか、まちづくりをこれからしていかないと、どんどん人口がこのようになっていくと思いますので、子供達の意見をどんどん取り入れていければいいなと思います。

〇倉原会長

厳しい現状ですけど、みんなで考えていきましょうということですね。

○高橋委員

資料4の5ページの要求度のトップ5に福祉の課題が2つ入ってるわけですが、とても切実な問題でありまして、特に人口減によって今後の介護を担う人材の不足っていうのが業界の中ではすごく言われています。去年も町の支援で訪問介護員の養成研修を開催して、町内の事業所で働いていただけるようにということで取り組んでまいりましたが、なかなか就労には結びつかない状況です。そういったところがありますが、これは継続して取り組んでいかなければならない問題という風に思ってましたので、今後も取り組んでいく予定でございます。やっぱり人口減が1番大きな課題かなという風には思っておりました。

○倉原会長

先ほどの人口減少と福祉の問題、全国的に厳しいところで、逆にうまくいくかどうかは分からないけども、なんとなく思うのは、マイナスとマイナスをかけるとプラスになるじゃないですか。そういう風に、人口減少の問題と、例えば何かの問題をかけあわせてプラスになるような組み合わせがないのかなと思います。僕自身はまだ浮かばないんですけど、そういうことができればなと思うところです。

○船戸委員

資料 4 の 5 ページのところ、満足度と重要度、要求度というのものについて、事務局に伺いたいなと思ってるんですが、満足度を見ていくと、平均が 3.51 ということで、大体日本人は、私もいろんなアンケートしますけれども、選択肢が 1 から 5 あると大体 3 を選ぶっていう、そういう傾向があるような気がしていて、この満足度も、大体、0.6 ぐらいの間で行ったり来たりしてる感じがします。どのぐらいこの差に意味があるのかっていうところは、ちゃんと検証したいなという気がしてまして。私のぱっと見の印象では、なんかこの 0.6 とか、重要度も 1.0 未満ぐらいの間で行き来してるわけですけど、これが全体としてこういうアンケートを取った時にこのぐらいになってしまうのはある程度仕方ないとしても、例えばクロス集計のような形で、高齢の 70 歳以上の方々の答えだともっと満足度とか重要度に大きな変化が出るのかとか、先ほどから若者の声をという話がたくさん出てますが、そういう方々に絞るともっと違いが出てくるのかみたいなところがもし見えているのであれば教えていただきたいですし、そもそもそういうクロス集計みたいなのが可能なのかというところも踏まえて教えていただけるといいかなと。

○事務局・鈴木

年代別のクロス集計はやってみておりまして、要求度のところだけ説明させていただきますと、まず、年齢層を3つに分けて分析しました。18から39歳の若年層と、40から59歳の中年層、あとは60歳以上の高年層ということで、3 つのグループでクロス集計を行っております。要求度の順位でいきますと、若年層は、地域医療体制の強化が 1 番、2 番に就労機会の支援、3 番に地域福祉体制の充実・強化、ここまでは全体と同じなんですが、4 番が雇用の安定、5 番が工業の振興となっておりました。次に中年層ですが、1 番が地域医療体制の強化、2 番が就労機会の支援、3 番が雇用の安定、4 番が地域福祉体制の充実・強化、5 番が安全な暮らしを支える道路の整備。高年層になりますが、1 番は地域福祉体制の充実・強化、2 番が地域医療体制の強化、3 番が就労機会の支援、4 番が高齢者福祉の充実、5 番が防災施設設備等の充実という形になっておりまして、どの年代も全体と比較して大きな特徴は出ていないというのが、クロス集計をしてみて感じたところです。

○船戸委員
　この地域医療体制の強化ですとか地域福祉、就労機会の支援という部分については、年齢構成、世代の構成を考えると比較的順当な答えだなっていう気はしております。そして、総合計画ですのでお金がありません、これから建物の維持、解体等にお金がどんどんかかってきます、人はいませんという中で、どこにお金を投入するのかっていう話になってくるんだと思いますけれども、この辺のお話で言うと、最近、山田町で社会福祉協議会とか NPO とかボランティアの関係の方々がいらっしゃる会に伺ったことがあって、その時に、今、山田町でやっているボランティアの活動をリストアップしてみましょうみたいな話があったんですね。そうしたら、高齢者に対する活動と子供に対する活動が圧倒的に多くて、その意味では、高齢者の福祉とか医療とか、子供への関心っていうのはやっぱり町民の皆さんの中でも意識が特に高いっていうことが見えたと思っていて、そこの部分にお金を投入するということが必要だと思うんですけど、そのやり方が、町民の方々が実際に動いて自分たちの町を動かしていくっていうような、町が何か施策をして町民がそれを受けるという形ではなくて、町民が動かすっていうやり方にお金を投入していくと、そういう関心が高いところの活性化が図られるんじゃないかという風に思っています。そして、そこの部分が黄色く塗られているところと結構重なるところが多いんじゃないかなと思います。そういうところへの注力、それからやり方を少し変えるという部分が重要かなっていう。
○倉原会長
　そういう意味では、これはこれで分かりやすくて、どこが大事かなっていう目安にはなるんですけども、それに単に力を、お金を注ぐだけではなく、その担い手をどうするかっていうこと、あるいはそれ以外もあるんですけども、ちょっと深い仕掛けというか意図を持って、少ない材料を使うというようなことが大事だと思います。それと、今クロス集計の話が出ましたけど、もしかしたら世代以外にも、例えば地域別とか、どこに答えがあるかは分からないですけども、色々見ておけばヒントがあるかもしれません。一方で、これが全てだと思うと危険というか、実はそこに隠れてるような見えないところもあると思います。
○事務局・田畑課長
　町民の方から何かアイデアというような話もあったんですが、町の方では町民提案型補助金というものをやっています。ただ、補助制度はあるんですが、利用率が悪くて見直しを行うところです。ですので、次期計画に向けても町民の方々から、こういうのをやったらいいんじゃないか、こういうのをやりたいというような意見を頂いて、それに対して補助金を出して、実施して頂いて、町を盛り上げていく、持続可能な町にしていくみたいな形にできればいいのかなという風に思っております。
○千葉委員
　私は山田で生まれて山田で育ってましたが、一時、東京に 10 年いました。それから山田に戻ってきて、やっぱり山田がいいなと思った気持ちをまだずっと持ってるんですけれども、若い人たちはどういう風に山田を思ってるのか。自分たちで山田のいいところを探って、それを生活に利用する、自分たちの楽しみに使ったらどうかなと思ってました。私も子供を預かるボランティアをしてますけども、預かる子供の数は極端に少なくなってるんですよね。山田にはこんなにいいところがまだまだあるんだけども、どうしてみんなそっちの方に目を向けてくれないのかなと思う時がまだまだあります。
○倉原会長
　人口減少は難しい課題だけど、実はいいところもある。でもそれを、うまく表に出せないもどかし

さがあるということですよね。先ほど事務局から、町民提案型補助金がありますよという話がありましたけど、なんとなく今お話を聞きながら、こんなことをやりたい、やれたらなっていう気持ちを町民側としてもいろんな分野でお持ちで。じゃあ提案してくださいと言うだけでは、敷居が高すぎると思います。もうちょっと提案しやすいように敷居を低くしたものがあるといいなと思いました。

〇事務局・田畑課長

倉原先生の言ったとおり、町側は提案型補助金を出したので、提案してくれたら補助出しますというような待ちの姿勢があったのではないかなという風に思っております。最近、課内でも話してますけども、こういう案を提案できませんかとか、例えば水産業の部分でもいいし、農業の部分でも、子育ての部分でもいいので、何個か事例を挙げれば手を上げやすいのかなとも思っております。新年度では、そういう事例を示しながら、申請件数が増えていくようにやっていければと考えております。

〇倉原会長

待ちの提案型っていうより、攻めの提案型というか、それが結局、財源が少ない中で、行政ではなく町民の方々が力を出してくれるっていうような、イコール担い手が育っていくっていうような、そういう循環になればと思います。極めて理想ですが。

〇沼崎委員

人口減少はどうやったって進んでいくっていうのは否めないので、自由意見にも書いてましたけど、交流人口拡大っていうところを震災後ずっと掲げてきたかと思うんですけども、そこで、他自治体でやってる山村留学を山田町としてやってもいいんじゃないかなって思ったりします。あと、山田のファンを作りましょうという話が以前ありましたが、町民でも、町外の人でも山田が大好きという方がたくさんおります。関東でもふるさと山田同郷の会っていう山田出身者の方々で組織されてる団体もありますし、震災きっかけで山田に繋がりを持った方もいらっしゃいますし。なので、今一度その山田とゆかりのある方との繋がりをもう少し深くしていって、移住、定住とまではいかないにしても、交流人口を少しでも拡大していけたらと思います。観光で言えば、漁業体験とかマリンツーリズムも、コロナの時期が 1 番受け入れが多かったんですよね。なんでかっていうと、今まで内陸の学校さんは仙台とか関東とかに修学旅行とか教育旅行に行ってたのが、コロナで動けなくなったから、沿岸の方で行ける場所を探してきたというのがあったからなんですが。現在はまた元の状況に戻ってしまっている現実もあります。その中でも、やっぱり山田が良くて毎年いらっしゃる学校さんもありますので、ここの繋がりを大切にしつつ、発信力を強化していくとか、魅力を PR することをやっていけばいいんじゃないかなと思いました。

〇倉原会長

皆さんから一言ずつ頂きましたが、他にいかがでしょうか。

〇山﨑委員

先ほどお話の合った町民提案型補助金について、具体的に教えてほしいです。

〇事務局・田畑課長

これまでの実績ですが、山田北インター付近の植栽、地域猫の去勢に使われました。補助上限が 100 万円、補助率が４分の３、単年度限りの事業ということでこれまでやっておりましたが、来年度からは見直しをすべく取り組んでいるところです。

〇倉原会長

4 分の 3 はちょっとハードル高すぎですね。団体とかだったらいいと思うんですけど、例えば個人の

ボランティアの人たちが集まった場合とかは厳しいですよね。そんな大きなお金まで出すと大変だから億劫だけど、少しお金あればやりたいなみたいなものは結構多いんじゃないかと思うんですけどね。

〇船戸委員

今の町民提案型について、方向性としてはすごくいいと思っていて、私もぜひ色々活用できるようになったらいいなと思っております。今の状況だと、やっぱり提案っていう形で、0 から 1 にするような提案をするようなものっていうのはちょっとハードル高くて、一部の人しかなかなか手を出せないっていうようなところがありますから、どちらかというと、もうすでにやっている小さな活動が、その補助を受けることによって少し潤ってきて活動が大きくなるみたいなイメージで。実は結構、町の中の色々なところに地域課題解決したいと思っている種っていうのはあると思うんですけど、そのためにちょっと水をやるようなイメージで、こちら側から少しアウトリーチしていくぐらいの見つけ方ができると、より花開くというか、芽が出てくる部分が多いんじゃないかなという気がしていまして、そういう仕組みができるといいなという風に考えてます。

〇倉原会長

色々検討はされてると思うんですけど、ぜひ今のご意見とかも参考に。そういう意味では、ちょっと勝手に言わせてもらうと、ある意味で押し付け型提案っていうか、「いいことやってるんだから提案してみてよ」ぐらいのこともあっていいような気もしますね。次回の会議はどのような予定ですか。

〇事務局・鈴木係長

今後の予定ですが、3 ヶ月に 1 回ほどの頻度であと 4 回開催させていただければと考えております。次回の審議会では、現在行っている第 9 次計画の検証結果についてご報告させていただいて、皆様からご意見をいただくという内容で予定しております。

〇倉原会長

分かりました。いろんな世代からの声を聞くために、ワークショップがやられてることはいいことだと思いますが、そこで終わりではなく、自分たちの言ったことがこう受け止められたんだなと、これに対して考えてくれてるんだなっていうのが分かるように返すことも大事だと思います。ちなみにさっきの町民提案型補助金って、みんな知ってらっしゃるんですかね、町の人たち。あっ、知らないんですね。周知は大切ですね。

〇船戸委員

資料 4 の 5 ページなんですが、要求度については、やはり直近で課題と感じてらっしゃることが如実に現れていると。地域医療や、就労や、地域福祉っていうような部分で、それからインフラですね、道路の整備が直近で目に見えて危ないという実感を持たれてるものについてこういう数字が出てるというのは非常によく分かるけれども、まちづくりという観点で、10 年もしくはその先を見据えた総合計画という意味では、個性豊かな力強い人材の育成というところの重要度の認識が軒並み低いというところに私はちょっと危機感を感じておりまして、やはりまちづくりは人づくりであるっていうような意見も参考資料 1 の中にはいくつもありますし、やはりこれからの町を担う人たちをどう育てていくかという部分が非常に重要になってくるはずですけれども、ここの重要度の認識が低くて、直近の問題に対する重要度というか要求度が高いのはある意味当然ですけれども、これはあえて町としてこの人材育成のところにしっかり注力しないと、この状況がもっとひどくなって、10 年後にもう 1 回総合計画立てようってなった時に、さらにこの直近の課題の部分が大きく出て、まちづくり、ひとづくりの部分に力が注げないっていうことになりかねないと思っておりまして、その部分は考慮した上で、

やっぱりひとづくり、人材育成っていうところにも実は大きな力を注ぐべきではないかなという風には感じております。

〇倉原会長

今のご意見、なるほどと思いながら僕なりに解釈すると、ひとづくりの部分は全てに関わってきて、全ての部分でいろんな人たちが携わっていくことによって、おのずと、遠い未来の人材が育っていくっていうような、なんかそういう形のような気もします。逆に、今、船戸委員がおっしゃったような、少なくとも今すぐ云々できるわけではないけど、そういうのをしっかり頭に掲げた上で、結果としてはこうだけど、その辺に仕掛けていくっていう企画が大事じゃないでしょうかね。

〇船戸委員

上の方で唯一赤いところも、住民主体のまちづくりの推進なんですよね。

〇倉原会長

そうですね。先ほどの提案型の補助金もそうですが、そういう提案をしてくれるような人たちがどんどん出てくるとそういう人も育つでしょうし、一方、その提案がいろんな分野にも反映されるでしょうし、ひとづくりの部分は全てに関わるようなことじゃないかなと思います。

他に、せっかくの機会ですから、意見等ないでしょうか。ないようですので、事務局に進行をお返しします。

６　その他

７　閉　会